

令和 2 年度

国臨協関信支部
神奈川地区会
会報誌
第 68 号



令和 3 年 7 月発行

会長挨拶

会報誌第68号発行に寄せて

NHO 横浜医療センター
神奈川地区会会長 蓮尾 茂幸

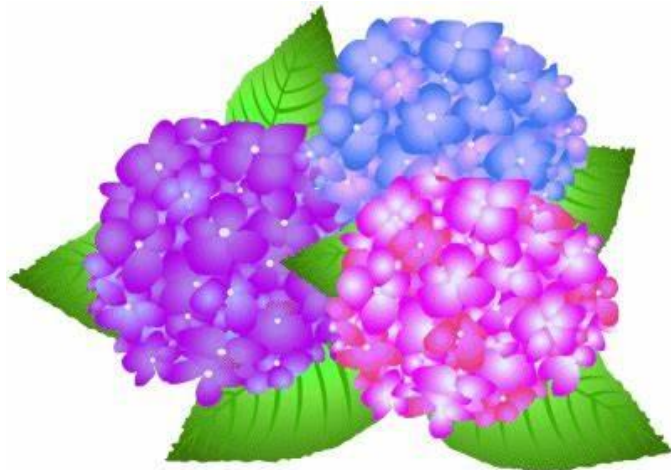
神奈川地区会会員の皆様、今年度、神奈川地区会の会長を務めさせていただいております横浜医療センターの蓮尾です。

新型コロナウイルスが蔓延してから1年半が経ちました。医療従事者から始まったワクチン接種も進み、今では年齢制限なしに接種が可能となっています。しかし、東京では感染拡大が留まることは無く、ついに4回目の非常事態宣言が発出されております。その中、オリンピックが開催され、令和3年もこの「コロナ禍」というキーワードからは抜け出せそうにもありません。

さて、もうご存じかもしれませんが、神奈川地区会についてお話したいと思います。神奈川地区会は県内の国立病院機構施設である相模原病院、神奈川病院、久里浜医療センター、箱根病院、横浜医療センターの5施設の臨床検査技師70名にて構成されている職能団体です。

例年ですと、親睦を深めるためのレクリエーションや知識、技術の向上を目指した研修会を行っています。しかし、前述のごとく新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度もレクリエーションは中止、参加型の研修会、地区会総会も中止の方向で進めております。皆様とお目にかかれることを楽しみにしていた私にとっては、非常に残念でなりません。来年は、すべてが参加型で実施されることを祈るとともに役員一丸となって会務を進めていきたいと思っております。会員の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

会員の皆様のご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



新会員の挨拶

NHO 相模原病院

「今を思う」

NHO 相模原病院 若林 弘



緊急事態宣言、蔓延防止対策、テレワーク、オフピーク出勤、不要不急の外出自粛・・・。

毎日ニュースで耳にするこれらの言葉、いつも気持ちが晴れない。

「人と人との接触を減らす」方針を基盤にした戦い方、私たち医療の現場には、かなり無理がある方策ではあったと思う。

COVID-19 鎮圧の前線に立つ医療は、「face to face」が基本であり、陽性患者の対応、院外からの侵入を防ぐ体制、院内クラスター感染を防ぐ体制等々の確立を推進するべく、行動履歴アンケートや体温測定などの入口コントロール、院内での3密回避とマスク・アイガード・ガウン着用など、接触・飛沫感染予防の徹底をし、無理と思われた現場で、一定の効果を上げていられると思います。

しかしながら、職場では感染対策に追われ、通勤中に見かけるマスク警察や、行動制限による友人知人と会えないストレスは、殺伐とした気持ちになってもおかしくありません。危機的状況は人の本性を露わにするとされているように、自分の出来る範囲で懸命に動く人、それにエールを送る人・サポートする人や、周りを考えずに自我を押し通してしまう人なども見受けられました。

このように世の中が変わっていく中でも、敢えて変えてほしくないものがあると私は思います。それは社会人・医療人としての正しい知識と倫理、責任と仲間を思いやる気持ちだと思います。

私達は、好むと好まざるとに関わらず人と人との関わりの中で生きています。「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉であっても、ずっとずっと心にこだます。」(マザーテレサ)

言葉は、人への贈り物だと思います。言葉は、人の心に安らぎや励ましを与えたいと思います。自分自身から出てくる優しい言葉を、周りの仲間に贈ってみてはどうでしょうか。朝、元気に「おはよう」と挨拶をする。してもらった事に気がついて「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。それだけで誰かの心に響くことがあるのではないのでしょうか。困っている人に「よかったら手伝いましょうか」と声をかける。ただ、それだけで誰かの心を温かくすることがあります。

神奈川地区会も、従来の活動様式からの変換を余儀なくされているのではないのでしょうか。少なくとも・・・同じ釜の飯を食う、杯を酌み交わすことで腹を割った話が出来たと感じて生きてきた私は、神奈川地区会で皆様に「face to face」でお会い出来る日を楽しみにしています。

「自己紹介」

NHO 相模原病院

品田 祐希



令和3年4月1日付で災害医療センターより相模原病院へ赴任致しました品田祐希と申します。相模原病院へ来て早3ヶ月、赴任早々院内に野生の鳩が出現したり、窓にクワガタがいたりと驚くことが多々ありますが、徐々に慣れつつある今日この頃です。

さて、私事です。検査技師歴は意外と短くまだ10年未満で今回が初めての転勤となります。災害医療センターはその名の通り、災害医療に特化した病院であり、DMAT本部が設置されていたことから在任中にDMAT隊員の資格を取得致しました。その後2016年に発生した熊本地震の際には実働し、現地にて支援活動を行って来ました。元々、検査技師になる前はバックパッカーとして海外3、40ヶ国を周っていたことや、ワーキングホリデーに行っていた経験などから国際医療協力にも興味があって、一昨年には国際緊急援助隊(JDR)にも登録しました。先進国に限らず、途上国も色々周ったお陰で、文化や言葉の違いを直接感じると共に世界には様々な考え方を持った人達がいることを体感でき、視野が広がった気がしています。

多趣味でバイオリンの演奏が可能、本業以外ではテクニカルアドバイザー、ダイビング、船舶や二輪免許を持っています。コロナ禍になる前の休日は飲み歩きをしたり、ライブに行ったり人の上を転がったりしていました。老若男女、人種も越えて様々な人達とコミュニケーションを取ることが好きで、そこから色々な情報を得ることが好きです。

まだまだ未熟でご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、初心を忘れずに、皆と協力をして日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。皆様からのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



「自己紹介」

NHO 相模原病院

小林 史佳



令和2年7月1日より、NHO 相模原病院に採用になりました小林史佳と申します。

私の出身は神奈川県になります。神奈川県でも海や山に近く、自然が多い場所で育ちました。相模原市も自然が多く、四季を身近に感じられる印象があります。また、親戚が住んでいるなど所縁も感じています。趣味は音楽で以前はよくコンサートや舞台等を観に行っていました。最近は新型コロナウイルス流行の影響で外出自粛やイベントの減少により、それらに参加する機会が減りました。そのため自分でも楽器を弾いてみようと思い、中学生以来になりますがピアノをもう一度はじめてみようと思っています。

また自宅で過ごすことやオンラインでの交流が増え、会って話すことが減ってしまったため新型コロナウイルスの流行が落ちついたら、友人らと旅行や食事に行きたいと思っています。

私は生化学・免疫検査を主に担当しており、採用から早くも1年ほどの時が経ちました。

日々の業務にも慣れ、検体検査や採血、当直業務など関わらせていただく業務や出来ることも増えました。しかしながら、新しい発見や反省点に気づく毎日です。

昨年は新型コロナウイルス流行により感染対策の徹底やPCR検査の導入がありました。それだけでなく、新しくアレルギー項目の分析装置が導入され、とても忙しくなく時が過ぎていった印象があります。まだまだ覚えることも多く、知識も増やさなければならないと感じています。

未熟で至らない点多々ありますが、益々精進していきたいと思いますので、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



「自己紹介」

NHO 相模原病院

小林 稜弥

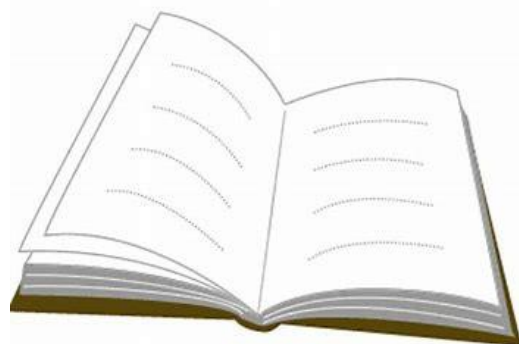


令和2年10月1日より相模原病院に採用されました小林稜弥（こばやしりょうや）と申します。よろしくお願いいたします。出身は茨城県つくばみらい市で大学生の時上京しました。その後、検査技師として茨城県にある病院のブランチラボに就職し、転勤で静岡県に住むことになりました。たくさんの引っ越しをしてきましたが神奈川県に住むのは初めてだったので楽しみもありましたが不安もありました。実際に住んでみると病院の近くに米軍の住宅地区がありとても外国の方が多くてビックリしました。また交通の便が良く電車で江の島や鎌倉、横浜中華街などの様々な観光名所に行くことができるのでコロナでの外出自粛が終わりましたら色々な観光名所に行ってみたいと思います。

前職ではブランチラボで3年間血液・生化・一般・輸血などの検体検査を担当していました。現在は細菌検査を担当することになり未経験の分野だったので最初は不安でいっぱいでしたが優しい先輩達に教わりながら日々成長を実感できています。一日でも早く業務を覚えられるようにこれからも勉強を怠ることなく今後も精進していきたいと思います。

また、私の趣味は本を読むことです。昔から本を読むことが好きで今でも時間を見つけては読書をしています。最近では電子書籍が発達してきてどこでも本が読め、保存場所にも困ることがないので昔より本が読みやすくなりました。特に苦手なジャンルの本はなく小説、漫画、実用書など取り敢えずどんな本でも読んでみる派なのでなにかおすすめの本がありましたら是非教えてください。

まだまだ未熟者でご迷惑をかけてしまうこともありますのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



「自己紹介」

NHO 相模原病院

山口 洋輝



令和3年5月1日より、相模原病院に採用になりました山口洋輝（やまぐちひろき）と申します。

高校まで長野県須坂市で育ち、専門学校時代は神奈川県海老名市で一人暮らしをしていました。現在は相模原病院の宿舎で一人暮らしをしています。中学高校とサッカー部に所属していましたが、海老名市に来てからは全く運動をしてない為、激太りしてしまいました。

美味しいものを食べる事と温泉に浸かることが好きです。海老名に住んでいた頃もよく近くの温泉に行ったり美味しいものを探して食べに行ったりしていました。現在は新型コロナウイルスによる自粛のため、たくさんのことができていないので、落ち着いたら運動しながら美味しいものを食べに出かけたり、近くだけでなく熱海や下呂温泉などに温泉旅行をしたいと思っています。神奈川県で美味しいご飯屋さんやおすすめの温泉がございましたらぜひ紹介していただけると嬉しいです。

現在は病理の業務をトレーニング中です。まだまだ分からない事だらけですが、日々、先輩方に指導していただき少しずつ業務が出来るようになり、喜びを感じています。一日でも早く戦力になれるように日々精進していきますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

NHO 横浜医療センター

「自己紹介」

NHO 横浜医療センター

小林 真二



令和3年4月1日付で国際医療研究センター病院から横浜医療センターに配置換えで参りました小林真二と申します。現在検体検査を担当しています。

私が今まで勤務した施設は東京病院、横浜医療センター、国際医療研究センター国府台病院、国際医療研究センター病院であり、横浜医療センターは9年ぶりの勤務となります。生まれも育ちも横浜市なので、再び横浜医療センターで勤務できることを嬉しく思います。9年前と比べると病院周辺は変わりありませんが、検査科は当時よりも若い技師が多く、活気に

満ち溢れている印象です。私自身も早く仕事を覚え、若手の足を引っ張らないよう頑張りたいと思います。

趣味はこれといってありませんが、子供たちと遊ぶことでストレス発散しています。コロナの影響で家の中で遊ぶことが多いですが、最近は少しでも運動不足を解消しようと天気の良い日は近所を2～3時間かけて散歩しています。子供たちと会話をしながら散歩している時間が幸せな今日この頃です。

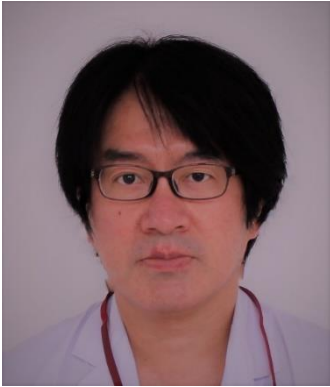
神奈川地区会の皆さま、今後ともよろしくお願い申し上げます。

NHO 神奈川病院

「はじめまして 谷岡健作です」

NHO神奈川病院

谷岡 健作



4月1日付で千葉医療センターから神奈川病院へ昇任で着任しました谷岡健作と申します。

神奈川地区会は約27年前賃金職員のころ、神奈川病院に1年程お世話になっております。

当時大変お世話になりました、山田先輩が山田技師長に、中野先輩も主任となり、かなり懐かしく思っております。神奈川病院自体は、赴任する数日前に新病棟が完成し、検査科職員も駆り出され引っ越し作業を行ったと聞いております。着任早々での病棟引っ越し作業が無いだけでも良かったと胸を撫でおろしています。

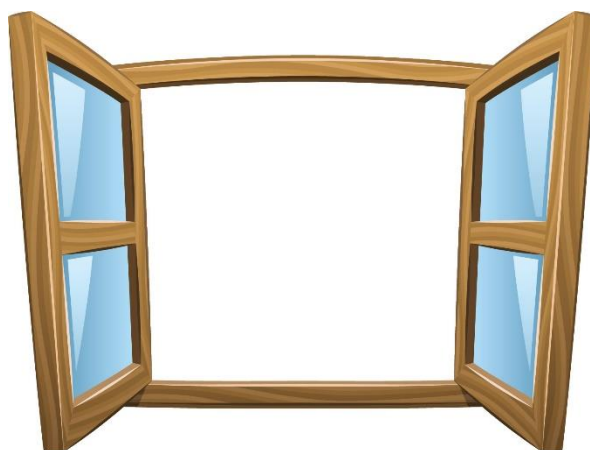
ただ、新病棟以外は配管剥き出しの旧棟を使用していて、検査科等は昔のままの旧棟で仕事をしています。

神奈川病院は技師の人数も少ないため、技師全員が他の部署をフォローアップしながら、アクティブに仕事をこなし、頼もしく思っています。慣れていない副技師長業務を、優しく丁寧に指導して頂いている技師長、各パートを一人で仕上げる秀逸な主任達、活動的で幅広くフォローアップが出来て前向きな技師達、そのような素晴らしいスタッフに支えられながら日々業務をこなしております。

赴任する前は、東京から通勤しようと考えていましたが、副技師長業務やオンコール・当直等があるので秦野市での生活を勧められました。色々和不慣れな業務が多く通勤するのはやはりやめようと思い、1週間でほぼ全てを決めて秦野市生活を4月から始めました。コロナ禍の新秦野生活は買い物も場所もすべてが分からない状況で、まだまだ慣れていません。

神奈川地区会会員の皆様も同じような思いでいると思いますが、早くコロナ禍を脱し普通の生活環境に戻ってほしいと思います。

最後になりますが、これからも努力して参りますのでご指導の程、どうぞ宜しくお願い致します。



「自己紹介」

NHO 神奈川病院

隠岐 博文



この度、沼田病院から神奈川病院に生理検査主任として着任いたしました隠岐です。沼田病院では8年間単身赴任でしたが、自宅から通えるようになりました。ただ通勤に片道2時間かかるので毎朝、眠い目を擦りながら通勤しています。

今回、自己紹介ということで私の趣味や好きなものについて話をさせていただこうと思います。私はもともと無趣味で何かいい趣味はないかと前々から探していましたが、最近職場の人の勧めもありゲームを始めました。ファミコン世代の私にとって現代のゲームの進歩にはとても驚きで、すごく画像が綺麗ですし、しかも今やオンラインで世界中の人とプレイできて・・・ってちょっとオジサンにはついていけないかなって感じはありましたが、いざやってみると面白いもので悪戦苦闘しながらプレイしています。コロナ渦で外出しづらいこのご時世には最適の趣味ではないかと思っています。

好きなものとしては6年前から「チンチラ」という動物を飼っています。みなさんチンチラってご存知ですか？猫の方じゃないですよ。私の飼っているチンチラはネズミの仲間になります。「ネズミ・・・気持ち悪い」と思われるかもしれませんが、毛皮の材料にもなるほど毛が柔らかくモフモフしていてとても可愛いらしいです。チンチラは片手に乗る程度の大きさで小動物の中でも寿命が長く、10～15年ほどです。ウチのチンチラに限って？なのか暴れん坊で家具や家の柱が齧られてボロボロになっています。大変なことは沢山ありますが、その何倍も癒されます。まだ日本ではマイナーな動物なのでチンチラ仲間が増えればいいなと思っています。

コロナ渦でなかなか他施設の皆さんとお会いする機会がないですが、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



NHO 久里浜医療センター

「自己紹介」

NHO 久里浜医療センター

樋口 晶子



2021 年 4 月 1 日付で成育医療研究センターより昇任で赴任いたしました樋口です。どうぞよろしくお願いいたします。私はこれまで国立がん研究センター中央病院、東京医療センター、成育医療研究センターと都内の 3 施設を経験し、今回初めて神奈川県での勤務となります。異動の挨拶をすると、多くの方に通うの？通えるの？と聞かれましたが、自宅から電車は乗り換えなしで通勤できるため恵まれた通勤事情だと感謝しています。実は久里浜医療センターのある横須賀市野比には祖父母の家がありました。幼いころは両親に連れられて、小学生になると学校の休みにはよく泊まりで遊びに来ており、夏休みは海水浴をしていた思い出の地でもあるため、なんとなく縁を感じています。通勤で歩く海岸線もとても懐かしく思えます。

着任から 3 か月がたちますが、今までの経験の中でこんなことが役に立つ日が来るとは！と驚くことも多々あり、何事も経験しておくものだと思改めて感じています。また技師生活の中で初めての一般検査を担当し、副技師長はじめスタッフ皆に助けられ支えられています。久しぶりに教えてもらう体験を楽しんでいますが、これからは一つでも私の経験を施設に生かし役に立てるようになりたいと思っています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響でスタッフとの会食や帰り道に見かける焼き鳥屋さん、お寿司屋さんにも行くことができないのが今はとても残念です。神奈川地区会の皆様とははじめましての方はもちろん、名簿には久しぶりの懐かしいお名前もちろはら見えており、早くお会いできる日を待ちわびています。

縁あつての神奈川県ライフを楽しみたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



NHO 箱根病院

「自己紹介」

NHO 箱根病院

熊野寿世



神奈川県地区会の皆様、はじめまして。4月1日より箱根病院へ転任しました熊野寿世と申します。

神奈川県は初めてです。箱根病院の前は埼玉病院で勤務していました。箱根病院への異動が決まった際、澤部技師長からご連絡を頂き、ご自宅から新幹線通勤をされていると聞き、私も新幹線通勤をさせていただいております。埼玉病院は自宅から1時間半ほどの通勤時間を要していましたが、箱根病院はいままでと変わらない時間で通えるため、生活のリズムはさほど変わらず過ごせています。箱根病院は通える施設なのだということがとても意外でした。

実際に勤務するまでは、箱根病院は私の中で知らないことばかりでした。

どのような病院なのか、スタッフや業務など、特に技師長とふたりの施設はどのような毎日なのか、不安しかありませんでした。今でも内辞の発表の日は忘れられない1日でした。院長より「熊野さんは箱根病院です」と言われ、私の中で想像もしていなかった施設名だったので、「え？箱根？」と院長を前に言ってしまいました。会議などで、いつも「お疲れ様」と声をかけてくださり、とても気さくな感じの埼玉病院の院長ですが、私のあの返事はなかったと思います。もちろん箱根病院を悪く思っていないですが、ただただ素の反応をしてしまいました。

箱根病院での業務は多岐にわたります。これまでの施設で検体検査の経験はあったものの、ランチ施設だったり、検体系が担当でなかったりと色々思い出しながらやっております。そんな私を澤部技師長はとても親切に教えてくださるため、今は不安なく業務を行えています。

コロナ禍で、集まる機会がなかなかないのですが、いつか皆様とお会いできたらいいなと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

施設のトピックス

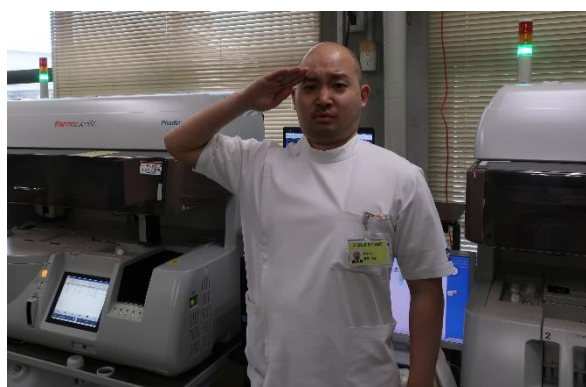
NHO 相模原病院

NHO 相模原病院 瀧澤 光彦

皆さんが相模原病院と聞いて、まず思い浮かぶのはリウマチ・アレルギー検査だと思います。その中でも今回は「アレルギー検査」について当院の現状を紹介していきたいと思います。

相模原病院はアレルギー疾患対策基本法に伴い国の中心拠点病院を担っていますが、実は2020年までアレルギー検査を外部委託していました。外部委託していた経緯としてコストパフォーマンスの悪さが主な原因と聞いていましたが、技師長をはじめ諸先輩方のご尽力により超低価格のランニングコストを実現し、2021年1月より非特異的IgEと特異的IgE 125項目に加え研究対象として14項目の院内導入を開始しました。導入から半年経過し、3,500検体 36,000テストを処理しており機器をフル稼働して毎日頑張っています。

当院のアレルギー検査は私を含む3名が中心となり業務を行っていますが、3名とも本格的にアレルギー検査業務を経験するのは初めてで導入当初は正直不安でいっぱいでした。検査に慣れてきた3月下旬頃、学童の春休みと共に検体数が爆発的に増加し、息つく間もなくひたすら検査に明け暮れていました。この苦い経験を踏まえて、次なる試練である学童の夏休みに向けて臨床の先生方と相談しつつ対策案を検討しています。今では臨床の先生からアレルギー研究のお手伝いもさせていただき、「徐々に信用されてきたぞ!」とスタッフ一同嬉しい悲鳴を上げております。今後の目標としてアレルギー検査を行える人員を増やすことを第一に研究・治験にも携われるようスキルアップを図っていきたいと考えています。アレルギー検査に少しでも興味がある方は是非、相模原病院に転勤希望はいかがでしょうか。



NHO 横浜医療センター

NHO 横浜医療センター 良井 亜美



2020 年 4 月より横浜医療センターに勤務している良井です。昨年は新人紹介コーナーで寄稿させていただきましたが、今回は横浜医療センターのトピックスということで当院のコロナ対策についてご紹介します。

まず外来では大型検温モニター、非接触型手指消毒用アルコールディスペンサーが設置されました。今までは 1 人ずつでの検温が混雑の原因となっていました。複数人で一斉に検温できるようになり、スムーズな検温ができるようになりました。さらに病棟では紫外線照射ロボットが導入されており、自動での病室内の殺菌、消毒が可能となっています。加えて職員の手作業と自走するロボットによる 2 重消毒にて感染対策がなされています。

次に検査科では 2 種類の測定機器を使用した院内 PCR 検査を導入しており、他院からの紹介による専門外来も行なっています。専門外来からの PCR 検査は以前までは外注検査で行っていたため、結果報告まで約 2 日かかっていた。しかし院内で実施可能となったため、当日中に結果報告が出せるようになり、長期休暇時にも対応が可能となりました。(順次 PCR 要員も日々トレーニングをして増員し、臨床からの様々な要望に応えられるようにしています)

またコロナワクチンを検査科の施設されたディープフリーザーで保管をしており、温度管理も毎日 4 回(日勤帯・時間外含めて)行い厳重管理をしています。現状、当院職員のワクチン接種は殆ど終わったため、消防士の方々の接種も実施しています。

このように、当院には新たに導入された感染予防に関連する機器が沢山あります。横浜医療センターでは患者・職員共に安心できるよう、これらの機器を活用し感染対策に努めています。まだまだ感染拡大は収まる気配はありませんが、コロナ収束を願ってみんなで頑張っ乗り越えていきたいと思っています。



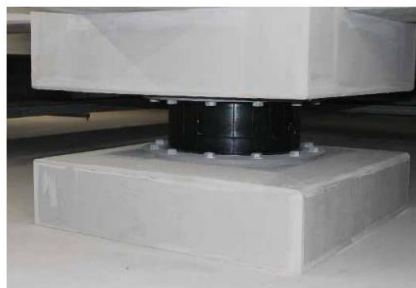
NHO 神奈川病院

NHO 神奈川病院

松島 麻衣子

当院は、1939 年に傷病軍人神奈川療養所として、創立 1945 年、当時の厚生省に移管され国立神奈川療養所に改組。1974 年 4 月 12 日に国立療養所神奈川病院と改称されました。

2002 年 3 月には国立小児病院二宮分院を統合し、2004 年 4 月に独立行政法人に移行され国立病院機構神奈川病院となりました。そんな古い歴史のある病院に長年の祈願であった新病棟が完成し、令和 3 年 3 月 21 日に開棟しました。新病棟は広大な敷地と自然豊かな環境を生かし、また、既存の建物との連携や将来整備計画を考慮し、機能性・経済性・効率性を十分配慮した建物配置となっております。病棟の構成は 1 階が内科系（含む小児科）50 床、2 階は地域包括ケア病棟 50 床、3 階は外科系 50 床、4 階はユニット化により呼吸器系 30 床と結核 30 床です。さらに、手術室、透析、リハビリテーション、栄養科も移転し新しくなりました。地域の医療拠点として地震等の災害時でも医療の提供が継続できるよう免震構造を採用しています。未だに外来・検査科は古い建物で、免震構造はされておりません。そのため、強い地震があるたびに壁にひびが入ったりしている状態です。また、豪雨のときには雨漏りしたり、いろんな虫が隙間から入ってきたりと建物的に不安要素が多々あります。災害時には、外来・検査科は医療の継続ができるのか心配ではありますが、我々検査科は、皆一丸となって日々奮闘しております。そんな神奈川病院に来られた際には、旧棟で働く検査科の明るい笑顔と新棟の新名所である長い廊下をぜひ見学してください。お待ちしております。



免震構造



病 棟



特別個室



リハビリテーション科



NHO 久里浜医療センター

NHO 久里浜医療センター

齋藤 ひとみ

久里浜医療センターは病棟老朽化に伴い、新棟を建てることになりました。新棟は今年7月末に完成し、10月に稼働予定です。

先輩方の話では新棟建設は25年以上前から話があったとのこと。当初は阪神・淡路大震災後、活断層を考慮して海側の駐車場に新棟を建てる予定でしたが、東日本大震災をきっかけに研修棟の山側に変更となりました。図のように津波が15mまで到達した場合、青く囲まれたところまで波が届くそうです。宿舎や駐車場は一撃です。

久里浜医療センターの敷地は東京ドーム約3個分あります。その中に病棟は広々と4棟あります。新棟ではそれらを一つに統合し各階に疾患別に振り分けた形となっています。1階はアルコール依存症、2階はアルコール・ギャンブル依存症、3階は精神慢性期、4階は精神急性期という構成案がでています。各階約60床あり、そのうちの3・4階の半数は閉鎖病床を設けています。3・4階は海の景色が見え、1・2階からは検体検査室が見えます。

現在、久里浜医療センターは病床使用率が他病院と比べて低い傾向にあります。その理由の1つとして病棟の老朽化が考えられます。正直なところ雨漏りやカビ、臭いなど気になる場所が多くありました。久里浜医療センターの患者は長期入院が多く、禁酒・禁煙のストレスで入院している間に不満がたまり途中退院される方もいたと考えられます。新棟建設でそれらが解決し、入院患者が増えると良いと思います。

今回の新棟は入院患者専用であり、残念ながら外来棟や検査室は古い建物のままです。外来棟にある生理機能検査室は雨漏りが起きるため、ここの建物も新しくしてほしいところです。次回もトピックスがあれば外来棟建設の話ができるといいですね。

東京湾の平均海面高を0mとした時の当センター内の標高

例えば、津波が15mまで到達した場合



NHO 箱根病院

NHO 箱根病院 熊野 寿世

箱根病院は神経難病に特化した病院です。その中でも重症筋無力症の診断や診療の充実に力を入れていく方向にあります。このことについて神経内科 阿部医師よりご寄稿いただきましたのでそれを掲載させていただきます。

今年度は新たに特命副院長をはじめ脳神経内科医が増員されました。臨床検査においては神経筋電気診断の分野で、単線維筋電図が積極的に行えるようになりました。単線維筋電図は施設基準を満たす施設では診療報酬算定（1500 点）が認められ、神経筋接合部疾患の診断に最も有用な検査に位置付けられています。特に重症筋無力症の診断においては最も感度が高い検査です。単線維筋電図は単一運動単位由来の 2 個以上の筋活動電位を記録して神経筋伝達機能を調べる検査法で、重症筋無力症では神経筋接合部における終板電位の発生からシナプス後膜における活動電位の発生までの時間の”ゆらぎ”の値（jitter 値）が異常に高値となります。

重症筋無力症の診断には血清学的に抗 AchR 抗体などの自己抗体の証明をする必要がありますが、陰性となる症例も存在するため、この jitter 値の高値を証明することが重要となります。しかしながら本邦においては本検査を行える施設は極めて少ないのが現状で、さらなる普及が望まれています。

当院は神経筋疾患の専門病院であり、これまで筋病理診断だけでなく神経伝導検査・筋電図や神経筋超音波を用いた神経筋電気診にも力を入れてきましたが、単線維筋電図を積極的に行えるようになったことで神経筋疾患の診療に幅が広がるだけでなく、未だに診断が困難とされる重症筋無力症においても地域に貢献できるものと考えられます。

参考文献) 今井富裕：重症筋無力症の診断・治療の最前線. 日本内科学会雑誌 108: 2356-2360, 2019

以上が阿部医師からのご寄稿でしたが、神経生理（特に筋電図など）を技師が実施している施設は多くありませんが、様々な分野の最新の情報に興味を持つことで視野が広がるのではないかと思います。

国臨協関信支部神奈川地区会会則

平成 06 年 03 月 05 日 施行
平成 17 年 02 月 26 日 一部改訂
平成 20 年 03 月 01 日 一部改訂
平成 21 年 03 月 07 日 一部改訂
平成 22 年 10 月 30 日 一部改訂
平成 24 年 04 月 01 日 一部改訂
平成 27 年 11 月 14 日 一部改訂
令和 02 年 10 月 30 日 一部改訂

(名称)

第 1 条 この会は、国臨協関信支部神奈川地区会(略称神奈川地区会)という。

(目的)

第 2 条 この会は、研究・学術ならびに知識の向上さらに施設相互の交流、会員相互の親睦等を図ることを目的とする。

(事業)

第 3 条 この会は、前条の目的達成のために、必要な事業を行う。

(事務所)

第 4 条 この会の事務局は、事務局長の担当施設に置く。

(単位)

第 5 条 この会は、国臨協関信支部と提携し、各施設毎に単位を置く。

(会員)

第 6 条 この会の会員は、神奈川県にある独立行政法人国立病院機構の病院ならびにセンターに勤務する検査科の職員とする。

(役員)

第 7 条 この会に、次の役員を置く。

会長 1 名、事務局 1 名、会計 1 名、理事若干名、会計監査 1 名。

(職務)

第 8 条 役員の職務は次の通りとする。

- (1) 会長は、この会を代表し会務を総括する。
- (2) 事務局は、本会の会務を司る。
- (3) 会計は、本会の会計を担当する。
- (4) 理事は、各会務を担当する。
- (5) 会計監査は、本会会計を監査し総会に報告する。

(役員の選出)

第 9 条 役員の選出は次の通りとする。

- (1) この会の会長は、総会で承認することにより定める。
- (2) この会の理事は、各単位毎に選出し総会で承認する。

(3) この会の事務局・会計は、理事会で互選する。

(4) この会の会計監査は、次期総会担当施設が行う。

ただし、会計と会計監査が同施設になった場合は理事会の協議により認めることができる。

(役員の任期)

第10条 役員の任期は、1ヵ年とするも再選を妨げない。

(役員の補充)

第11条

(1) 会長が任期途中で転勤、病気等で辞任した場合は、理事会で選任し次期総会で報告する。

(2) 会長以外の役員が任期途中で転勤・病気等で辞任した場合、該当施設は速やかに後任者を選出しなければならない。

(会議)

第12条 この会は、次の会議を開催する。

(1) 総会は、年1回開催し当日参集の会員をもって構成する。

(2) 理事会は、会長、事務局長、会計、理事をもって構成する。

(3) 災害等により集合型の総会が開催できない場合は、状況により書面決議等による総会を開催することができる。

(会計)

第13条

(1) この会の会計は、会員の会費等を以ってあたる。

(2) この会の会費は、1年間1人500円とし、各単位毎に第1回理事会までに納入するものとする。すでに納入した会費、その他拠出金は返還しない。

(3) この会の会計は、総会において会計報告及び会計監査報告をする。

(4) この会の会計年度は、10月1日より翌年の9月30日迄とする。

(旅費規程)

第14条

(1) この会の旅費は、交通費（普通車実費）とする。

(2) 行動費として500円支給する。

(付則)

(1) この会の会則は、総会の了承を得られなければ改廃することが出来ない。

(2) この会則は、平成22年11月1日から施行する。

(細則)

第1条 会則第12条1項の総会の開催場所は、各単位(施設)で持ち回りとする。

順番は、独立行政法人国立病院機構 神奈川病院、相模原病院、横浜医療センター、久里浜医療センター、箱根病院とする。

ただし、理事会の協議により変更することができる。

第2条 総会時の承認は、当日参集する会員の過半数の賛同をもって成立する。

第3条 次期会長候補は、理事会が推薦する。

理事会は、必要な場合文書等をもって協議することができる。

第4条 大規模施設等（相模原、横浜）からは複数名選出することができる。

神奈川地区会会員名簿

令和3年7月1日現在

● NHO 相模原病院

吉川 英一
若林 弘
山崎 茂樹
小野 剛司
鈴木 芳明
川上 正裕
春原 悟
井田 貴明
安田 秀平
瀧澤 光彦
品田 祐希
安田 寿美子
福永 利恵子
安保 伸樹
藤原 由貴乃
竹川 真莉子
幡野 廣樹
錦織 春菜
田中 敬涼
小林 大暉
水永 ちひろ
堀口 陽平
柏木 麻美子
中山 佳苗
村上 夏美
中谷 道昭
小林 史佳
小林 稜弥
山口 洋輝

● NHO 横浜医療センター

蓮尾 茂幸
武山 茂
遠藤 隆
阿部 浩
播井 美由紀
濱田 大輔
小林 真二
伊藤 慧
内海 雅文
呉屋 薫
野中 照美
佐久間みゆき
大畑 真利
山口 有希
畑山 奈帆子
高橋 千尋
中井 敦子
李 平淑
宮川 真名実
新本 恵理香
大森 衣里子
高橋 美樹
森 真衣子
良井 亜美
安中 未華

● NHO 神奈川病院

山田 大助
谷岡 健作
立川 恵子
中野 和明
山崎 直樹
隠岐 博文
金子 勇
松島 麻衣子
加山 新菜

● NHO 久里浜医療センター

樋口 晶子
濱田 靖
水野 正浩
近藤 南
齋藤 ひとみ

● NHO 箱根病院

澤部 祥子
熊野 寿世

神奈川地区会会報誌 第 68 号

発行： 蓮尾 茂幸
編集： 山崎 茂樹
熊野 寿世
水野 正浩
井田 貴明
宮川 真名実
加山 新菜